

国語

第1問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

学校は勉強せよとは言いが、どういう風に勉強したらよいのかを教えることは少ない。小学生は、やみくもに教科書を読み覚えればいい、と思っているから、勉強の仕方に関心をもつ子はかつてほとんどいなかった。いまはすこし事情がちがうかもしれないが、自覚的学習が行なわれていないのは、昔とあまり変わりがないようである。

中学生になると、試験の点数が気になって、試験勉強をするようになる。これも教えてくれるものもないから、我流か、まわりの者のしていることの見よう見真似である。

気が小さいというか心掛けのよいのは、一週間とか十日も前から試験勉強を始めるが、たいていは、翌日の試験科目の勉強を夜になって手をつける。終るのは夜中をすぎる。朝は重い A をかかえて試験を受ける。これではうまくいかないことが多いにきまっている。

「日ごろから勉強していれば、試験直前になってからあわてることはない。ふだんの勉強が大切で、復習をきちんとしていけば、一夜漬けの勉強などしなくていい。」

自分だって一夜漬けをしていたくせに、いい具合に昔のことを忘れた教師が、そんなキレイごとを言うけれども、信用する生徒は限られる。

いくら、普段勉強していても、直前の試験勉強をしないと、よい点とはれない。前に習った事柄の方が、時がたっているから消えたり、変形したりする、それを頼りに答案を書けば、間違いが多くなる。一夜漬けは忘れるヒマもないから、覚えたことは頭に残っていて、役に立つ。そういうことを、すこしものを考えることもは、自然に“発見”する。教師の忠告など聴くものではない。一夜漬け勉強の信者はどんどん広がる。

食事をするとき眠気をもよおすから、一夜漬けの晩は食事をとらないのが賢明だが、B、とばかり、大飯を平らげる者もあるが、みすみす頭を悪くし

ているようなものである。そんなことを心配する家庭は、かつてはなかった。
“親が死んでも食休み”⁽⁴⁾ということわざは知っていても、わが子の一夜漬け勉強にそれを援用して、学習効果を高めようとする家庭は、かつては、まずいなかった。教育熱心ないまの親たちも、その配慮に欠けていることが少なくない。

一夜漬けを始めると、早々、疲れが出る。それに敗けてはいけないと、自分を戒めて頑張る。

とうとう耐えられなくなって、ちょっと横になり、一服する。すると、いつもは目もくれないような難解な本が、妙におもしろそうに見える。手にとって、ちょっとのつもりでのぞいてみると、これがおもしろい。ついやめられず、読みふけて時間をムダにしてあわてる。そういう経験をする一夜漬けが、実にたくさんあったのであるが、その意味を考えることはなかった。

C。休みなく知識を記憶しては飽和状態になって、よろしくない。適当な息抜きが必要である。それを体が合図するのである。

つまり、休みなく知識を記憶していると、頭が働かなくなる。息抜きで、記憶の一部を放出する必要がある。忘れる時間がほしいのである。一夜漬けでは、忘却の出番がないから、不自然な学習になる。試験がすむと、ほとんど忘れてしまう。頭の働きを悪くする結果になることを知る人はほとんどいない。忘却は勉強の敵なり、という考え方が一夜漬けを支えている。

大人の一夜漬けもある。

そしてそれが有効でないことを如実に示す例はいくらかもある。そのひとつのエピソードを紹介する。

学会が、個人研究の発表のほかに、シンポジウムを行なうようになったのは、戦後もかなりたってからである。もちろんアメリカの真似であって、実際をよく知らない留学帰りの人たちが、やってみようと思いついたものである。企画、構成などかなりお粗末なシンポジウムが流行した。

司会する力もない人が司会者になり、互いに口をきいたこともないような“専門家”数人に、テーマをめぐって、めいめいの考えを述べ合ってもらおう、というのだが、めいめいほかのスピーカーが何をしゃべるかわからず、事前の打ち合わせもなく、当日を迎えるのだから、シンポジウムのおもしろかったためしがな

い。

セリフ合わせもしない役者がぶっつけ本番の芝居をするようなもので、しゃべっている当人たちは真剣でも、聴いている人間には、何のことかまるでわからない。シンポジウム話を聴く前には、いくらか分っていたことさえ、聴いたあとで分らなくなってしまう。

あるとき、日本英文学会の全国大会で、シンポジウムが四つも並行して行なわれたが、そのひとつに「エリザベス朝演劇」があった。

関西のある教授は、この分野で最高の権威だから、メインスピーカーであった。教授はたいへんな勉強家である。とくに準備の必要もなかったであろうに、

Dな教授は、多くの本を読んで準備した。文献が多くて準備が間に合わなくなった。

教授は、当時もっともぜいたくな上京の方法だった夜行寝台で上京することにしてはいたが、寝台車へ読む本をもちこみ、ほとんど夜を徹して本を読んで、東京へつくと、その足で会場の大学へかけつけた。そのことをこの教授は、親しい人たちに打明けたから、美談として広まったのである。

それほど準備をしたこの教授のシンポジウムの発言は、むしろ精彩を欠いた。

E。

勉強が一夜漬けであって、忘れるゆとりがなかったのがいけない。せめて数日も冷却の期間があれば、もっとまとまった発言になったであろうが、直前に頭に入れた知識では、混乱しないではない。

忘却が必要である。覚えたことは一度、忘却の流れにさらすことによって、命のある知識になるのである。勉強家はしばしば、それを見落すのである。

かつてのイギリスの大新聞では、ニュース記事は別にして、ホットな問題を速報しないことを建前にした。ことに社説はその日におこった問題をとり上げることを避け、一両日たってから社説で論じた。一夜漬け文章の危うさをよく心得ていたのであろう。スピードが命のジャーナリズムでもなお、熱をさます忘却の時間をおく必要のあることを知っていたのは注目される。

新刊紹介、書評というのも、一夜漬けに近いことが多い。そのために、

Fことが難しいのである。

イギリスでもっとも権威のある書評をのせるとされる「タイムズ・リテラリー・サプルメント」がかつておもしろい試みをしたことがある。

「25年後の書評再録」を特集したのである。四半世紀前に同誌に掲載された書評（無署名）をそのまま再録した。編集陣によほどの自負と見識がなくでは考えることもできない企画である。

結果としておどろくべきことが明らかになった。発表・出版当時、好評で高く評価された本が、ほとんど忘れられかけている例がいくつもある反面、芳しくない評価を受けた本が、半ば古典のようにになっている例がいくつもあった。

初出の書評原稿を書いた人の力量や良心を疑うことはできないのに、こういうことになったのは、つまり、書評家には整理の時間が与えられていなかったためである。一夜漬けではないが、いくらか締切りにせかされた思考、判断に動かされていたところがあったはずである。 を入れる要があった。忘却のはたらく時間的ゆとりがなかったのが、こういう結果になったのであろう。

一般の新聞、雑誌の書評、新刊紹介は「タイムズ・リテラリー・サプルメント」よりいっそう一夜漬け的であると考えてよかろう。25年はおろか、5年後に再検討して、それに耐えられる書評、紹介というものが、どれだけあるか、はなはだ心細い。

読者としては新刊紹介よりも、ある程度、時間のたった旧刊の紹介を望みたい^(ウ)ところである。一夜漬けは、試験勉強だけでなく必要ではあるが、害のあることを、われわれは考えなくてはならない。

（出典）外山滋比古『忘却の整理学』筑摩書房、2009年。ただし、出題のために一部変更した。

問1 空欄 に入る最も適切なものを、以下から一つ選べ。

- ① 体 ② 頭 ③ 足 ④ 脛 ⑤ 腰

問2 下線部(ア)の理由として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 2

- ① 教師がこどもの頃は、同じように一夜漬け勉強をしていたから。
- ② 日ごろから勉強しているのは、気が小さい人間であると思っているから。
- ③ 周りの人間のほとんどが一夜漬け勉強をしているから。
- ④ 一夜漬けは試験に役立つことを経験して知っているから。
- ⑤ 大人はキレイごとばかり言って、子どものことを本気で考えていないから。

問3 空欄 B に入る最も適切なものを、以下から一つ選べ。 3

- ① 色気よりも食い気 ② 腹がへっては戦はできぬ
- ③ 武士は食わねど高楊枝 ④ 茶腹も一時
- ⑤ 思う念力岩をも通す ⑥ 学問に王道なし

問4 下線部(イ)が指す内容として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 4

- ① 勉強前にしっかり食事をとらないと、頭を悪くしてしまう。
- ② 勉強後に食事をしてエネルギーを摂取しないと、学習効果が下がってしまう。
- ③ 夜中に大飯を平らげると、消化不良を起こして体を悪くしてしまう。
- ④ 勉強の前に食事をとることで学習効果が下がってしまう。
- ⑤ 勉強の後に食事をして満腹になると、学習効果が下がってしまう。

問5 空欄 C に入る文章として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

5

- ① 禁断の木の実は甘いように、やってはいけないことがどうしても魅力的に見えてしまうものなのだ
- ② 道草を食うのは、つめてどんどん進んではいけないという生理的欲求によるものであろうと思われる
- ③ 他山の石が魅力的に見えるのは、自分の置かれた状況に不満を抱いているからであろう
- ④ 「田舎の学問より京の昼寝」と言われるように、同じものばかりつめこむよりも、多様な刺激に触れた方が効率がよい
- ⑤ ^{かぶと}兜を脱ぐのは、疲労をリセットしてもう一度気を引き締めなおすために必要な行為なのだ

問6 空欄 D に入る最も適切なものを、以下から一つ選べ。

6

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ① 良心的 | ② 野心的 | ③ 権威的 |
| ④ 怠惰 | ⑤ 利己的 | ⑥ 卑屈 |

問7 空欄 E に入る文章として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

7

- ① あまりにも多くのことを言おうとして、何を言おうとしているのか聴くものには、伝わらなかったのである
- ② セリフ合わせをしていないぶっつけ本番の芝居と同じく、発表の練習に費やす時間が取れなかったために、スムーズな進行ができなかったのである
- ③ 教授の視点で発言すればよかったものの、文献の知識を取り入れ過ぎたために、通り一遍のありきたりの発表になってしまったのである
- ④ 寝る暇もなく夜通し勉強したものだから、いざ発表の場面で頭が働かず、スムーズな進行ができなかったのである
- ⑤ シンポジウムが四つも並行して行われていたので、聴衆が分散して空席が目立ち、気持ちが入らなかったのである

問8 空欄 F に入る最も適切なものを、以下から一つ選べ。

8

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ① 中庸 ^{ちゅうよう} を得る | ② 生き馬の目を抜く |
| ③ 正鵠 ^{せいこく} を射る | ④ 微に入り細 ^{うが} を穿つ |
| ⑤ 奇をてらう | ⑥ 天を衝く |

問9 空欄 G に入る最も適切なものを、以下から一つ選べ。

9

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| ① 熱 | ② 色 | ③ 火 | ④ 風 |
| ⑤ 手 | ⑥ 足 | ⑦ 口 | ⑧ 腰 |

問10 下線部(ウ)の理由として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

10

- ① 旧刊は、再版のたびに少しずつ修正されて内容が整理されていくから。
- ② 旧刊は、多くの人々の目に触れることで評価が定まっているから。
- ③ 旧刊は、書評家に整理する十分な時間が与えられるから。
- ④ 旧刊は、古典と呼ばれるために十分な歴史と風格が備わるから。
- ⑤ 旧刊は、古本屋などで中古で安く購入できるから。

問11 本文の内容としてより適切なものを，以下から二つ選べ。

11

,

12

(順不同)

- ① アメリカの真似で始まったシンポジウムは，オリジナリティがなかったためにつまらないものであった。
- ② 一夜漬けの勉強は，試験が終われば忘れ去られてしまううえに当日のパフォーマンスも低下させるだけなので害でしかない。
- ③ 一夜漬けの勉強は，試験の点数を稼ぐのには役立つと思っている人が多いが，結果としては頭の働きを悪くしてしまう。
- ④ 記憶する能力もちろん大切であるが，忘却はそれに劣らぬ良いはたらきをもっている。
- ⑤ やるべきことや時間に追われる生活はストレスになって健康に良くないので，ゆったりとした生活を心がけることが重要である。
- ⑥ 物事を判断するには時間をおいて，より多くの知識や他人の意見を取り入れながら要点を整理することが重要である。
- ⑦ 勉強はやみくもに教科書を読むのではなく，自覚的，主体的に学び取る姿勢が重要である。
- ⑧ 書評は5年後，25年後に改めて再評価することが重要である。

第2問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。なお、次の文章は2022年4月に高校の教科となった歴史総合を通して、歴史を学ぶ意味について書かれた評論文である。

「歴史総合」の大項目「B. 近代化と私たち」では、近世から近代の接続を考えた後に、18世紀後半のフランス革命について学びます。そこで本文では、遅塚忠躬の『フランス革命－歴史における劇薬』を取り上げましょう。本書は、歴史を学ぶ意味について、歴史の中に生きた人間たちの悩み・過ち・苦悩と、「その苦悩あればこそその偉大さ」を知り、共感・感動することであると明確に規定します。それ以前のフランス革命の本としては、たとえば、河野健二・樋口謹一『フランス革命』があります。「世界の歴史」シリーズの中の一つの巻がフランス革命とナポレオンの歴史にあてられ、Aと述べています。言わば「近代化」のモデルをフランス革命に見ています。これに対して、遅塚の本はフランス革命の「悲惨」に着目し、「その苦悩あればこそその偉大さ」があったのだと逆説的に述べるのです。「近代化」を多角的に検討するために格好のテキストです。

遅塚は、フランス革命の理想と現実を、革命主体の「苦悩」に寄り添って描き出そうとしました。その理想とは、国民公会においてサン・ジュストが「B」と演説したことに見られるように、この不幸や悲惨を絶滅して「人間の尊厳」を回復することであり、日本国憲法第25条の生存権の淵源^(ア)となっています。遅塚は、「現代日本の皆さんが、貧困に由来する悲惨から守られているとすれば、それはロベスピエールやサン・ジュストの掲げた理想と深い関係があるのです」と、力強く説明します。その一方で、大きな悲惨が理想と表裏一体^(イ)の関係としてあり、革命独裁の恐怖政治によって大勢の人間が処刑されました。遅塚は、革命によって旧体制を否定することを抗がん剤にたとえながら「劇薬」と呼び、副作用としての恐怖政治があったのだとまとめます。マリア・キュリーがラヴォワジエを処刑したフランス革命に批判的であったり、中江兆民や幸徳秋水がフランス革命に対する一定の批判をおこなったりしたのは、そうした悲惨に目を向けていたからでした。Cというのが、遅塚のスタンスです。

遅塚は主著『ロベスピエールとドリヴィエ』において、その劇薬の歴史的原因^(ウ)

をフランス革命の「相対的後進性」に見いだしていました。相対的後進性とはイギリスと比較した時にという意味であり、富裕な商工業市民層が自由な商工業の妨げになる旧体制を打倒しようとしても、単独では闘えずに自由主義貴族や農民・都市民衆と共闘する必要があったというフランス固有の状況を、そう形容したのでした。このような見方は、フランス革命は、貴族、ブルジョワ（商工業市民層）、都市民衆、農民のそれぞれの革命の複合体であったと論じた、ジョルジュ・ルフェーブルの『1789年』の有名な複合革命論にもとづいています。遅塚は、都市民衆と農民を合わせた「大衆」に注目し、先行するイギリス革命やアメリカ独立革命と異なって、D ことにより、フランス革命が「資本主義の発展に適合的な社会」を実現したのみならず、一步さらに歴史を進めて生存権など人々の平等をはかる「社会的デモクラシー」を実現しようとしたと分析するのです。革命独裁期に目指された経済統制や男子普通選挙権などはほどなく撤回され、フランス革命は言わば早過ぎた社会的デモクラシーの革命となりました。その課題はロシア革命などに継承されていき、革命独裁も繰り返されていくというのが遅塚の展望です。「歴史総合」にひきつけて言えば、権利の平等という政治的デモクラシーを目指した「近代化」の営みの中ですでに、人々の社会的な平等をどう実現していくかという社会的デモクラシーの課題（言わば「大衆化」の課題）が出現しており、後者の理想の実現のためには多大な困難に直面したというのが、この本が示している分析です。しかも E のでした。20世紀まで見通しながら、遅塚はこうフランス革命の意義をまとめているわけです。

フランス革命の悲慘と理想が一体のものだと見るのが遅塚の歴史解釈です。これは本国フランスでもよく語られる「革命二分説」（1789年に始まる革命の前半は讃えるけれども、革命後半の恐怖政治は批判する歴史解釈）ではなく、前半も後半もひとまとまりの構造になっているという「革命ブロック説」に立つものです。その理由を「劇薬」としてのフランス革命という比喩で説明しているのです。^(エ)このような革命の徹底によって、フランス革命はすべての社会集団の習俗や心性をも変革した「文化革命」の特徴を持つことになったと、遅塚はフランスにおける革命200周年記念国際大会で柴田三千雄とともに共同報告をしています。遅塚・柴田はフランス革命と明治維新の相違点について、近代的ブルジョワ社会

を生んだか半封建的な社会を生んだかという点にあるのではなく、フランス革命が「文化革命」であったのに対し、明治維新は「自由と平等とを要求していた民衆運動を厳しく弾圧」し、「旧来の文化的象徴」を動員して天皇制を強化する結果に終わったと論じています。つまり、明治維新が革命ではなく、不完全な変革であったことが、その後の日本社会に大きなマイナスの影響を与えていくことになると、講座派や大塚史学とは別の政治文化の面から考察しています。遅塚の『フランス革命』に戻ると、フランス革命の徹底した過去の否定を評価するがゆえに、ロベスピエールの革命独裁の悲惨は理想と一体のものであったとみる「革命ブロック説」が重視されるわけです。

私は自分の世界史の授業の中で、「ロベスピエールの「殺人」はやむをえないものだったと言えるか」という問いを生徒とともに考えてきました。この問いに答えるためには、政治的殺人が正当化されうるのかという原理的な思考が求められますし、同時に歴史の変革にテロルは不可欠なのかという歴史批評の思考も求められます。後者の思考には、明治維新との比較が大きなポイントになってきます。たとえば、三谷博『日本史のなかの「普遍」』は、フランス革命にともなう政治的死者約155万人（対外戦争の死者を含む^(カ)）と明治維新の死者約3万人を比較しつつ、それは徳川時代の日本が持っていた分権体制（双頭・連邦国家）という特徴が国家体制の解体と再編を容易にしたということや、対外的危機意識によるナショナリズムが同国人同士の殺戮を抑制したこと、目標への直進に抵抗が大きい場合に別の実現しやすい回路をとるアプローチ（版籍奉還を経て廃藩置県に至るなど）がしばしばとられたことなどによるものであったと論じます。「復古」が掲げられつつ政治変革が進められることは、明治維新だけでなく古代ローマを参照したフランス革命でもそうであったのであり、明治維新の内実は中間層による「下からの改革」のなかで「公議」「公論」という理念が実現していくプロセスだったのです。

これらの明治維新分析を読むと、「近代化」「大衆化」を目指すプロセスには多様な道がありえると考えた方がよいのだと思われます。そしてフランス革命の過去からの断絶に大きな意味を見いだすような「歴史の出発点」重視の見方は、歴史解釈として明快なのですが、歴史を単純化しすぎてしまうと言えます。明治維

新からアジア・太平洋戦争に至る近代日本の歴史について、明治維新の性格が決定的に問題であったと考えるより、明治維新によって実現したもの（たとえば権力分立制とか「公論」など）がその後の歴史の展開の中でどのように変容していったのかを考えることが大切なのではないのでしょうか。

（出典）小川幸司・成田龍一編『世界史の考え方』岩波新書，2022年。ただし，出題のために一部変更した。

問1 空欄 ～ に入る文として最も適切なものを，以下から選べ。ただし，それぞれの空欄には異なるものが入る。

(A) ， (B) ， (C) ， (D) ， (E)

- ① 国家のなかに，一人でも不幸な人や貧しい人がいるのを放置してはならない
- ② そのことは，資本主義の世界史のなかで「相対的後進性」をもったフランスだからこそ先進的に直面した問題だった
- ③ ブルジョワが「大衆」の革命推進力に依存せざるをえなかった
- ④ この出来事がデモクラシーとナショナリズムの形成によって世界史を変えた
- ⑤ 「パンがなければ，お菓子を食べろ」と言ったルイ16世は，民衆の憎悪の的となった
- ⑥ 理想と悲惨の両局面においてフランス革命を唱えることが大事だ

問2 下線部(ア)の類義語として最も適切なものを，以下から一つ選べ。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ① 精神 | ② 抽象 | ③ 具現 | ④ 濁流 |
| ⑤ 萌芽 | ⑥ 深淵 | ⑦ 心情 | ⑧ 誠意 |

問3 下線部(イ)の対義語として最も適切なものを，以下から一つ選べ。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ① 自家撞着 | ② 森羅万象 | ③ 風林火山 | ④ 泰然自若 |
| ⑤ 不撓不屈 | ⑥ 百鬼夜行 | ⑦ 温故知新 | ⑧ 因果応報 |

問4 下線部(ウ)の内容として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 20

- ① 経済統制や男子普通選挙権を撤回せざるを得ない状況に追い込まれたこと
- ② 革命独裁の恐怖政治によって大勢の人間を処刑せざるをえなかったこと
- ③ 近代化，大衆化を目指すプロセスにおいては，多様なあり方を模索すること
- ④ ブルジョワのみならず都市民衆と農民の力を借りて革命をおこなったこと
- ⑤ 近代化のモデルをフランス革命のみに求めざるを得なかったこと
- ⑥ 産業革命によって勃興したブルジョワ階級によって革命をおこなったこと

問5 下線部(エ)が示す内容として最も適切なものを，以下から一つ選べ。 21

- ① 革命の前半は素晴らしいが後半は政治的殺人を正当化した革命
- ② 後世の生存権につながるような革新的な内容と独裁を含んだ革命
- ③ 近代ブルジョワ社会を生み出すと同時に半封建的な社会を生み出した革命
- ④ イギリスと比較したときに相対的後進性をともなった革命
- ⑤ 貴族，ブルジョワ，都市民衆，農民によってになわれた革命
- ⑥ マリー・アントワネットをはじめとした貴族達が断頭台で処刑された暴力による革命

問 6 下線部(オ)が示す内容として最も適切なものを，以下から一つ選べ。

22

- ① フランス革命に比べて圧倒的に死者の少ない穏健的な変革
- ② 廃仏毀釈にみられるように宗教的な旧来の文化的象徴を動員した変革
- ③ 士族層による下からの改革と天皇制の強化によってなされた変革
- ④ 日本の資本主義の発展にとって適合的な社会を作りだした変革
- ⑤ 自由民権運動を抑圧し，絶対主義的天皇制をしいた変革
- ⑥ 歴史の変革にテロルは不可欠ではないということを示した変革

問 7 下線部(カ)の語句の意味について最も適切なものを，以下から一つ選べ。

23

- ① 対応するべき客観的实在性を欠いた主観的表象
- ② 歴史的・社会的に制約された観念形態ないしは虚偽意識
- ③ 矛盾・対立するふたつの概念をより高次の段階で統一すること
- ④ その時代を特徴づけている精神
- ⑤ 成員が全人格をもって結合する社会
- ⑥ すべてのものに共通に存すること

第3問 各問いの二重下線部のカタカナと同じ漢字を使うものを、以下から一つ選べ。

問1 蚊がバイカイするウィルスに感染する。 24

- ① 会議に関係者としてバイセキする。
- ② シャーレで菌をバイヨウする。
- ③ 凶星を突かれてロウバイする。
- ④ 新聞に代わるバイタイとしてSNSが台頭している。
- ⑤ コウバイが急な坂道を上る。

問2 バクゼンとした不安を感じる。 25

- ① サバクをラクダに乗って渡る。
- ② 尊王攘夷を掲げてトウバクに参加する。
- ③ 彼の秘密をバクロする。
- ④ 恋人のソクバクが強すぎてうんざりする。
- ⑤ 広島旅行でゲンバクドームへ行く。

問3 罪を犯してシュウカンされる。 26

- ① 超満員のカンシュウの前で試合する。
- ② 日本銀行券のカンシュウ状況を発表する。
- ③ 冬至にはゆず風呂に浸かるのがカンシュウになっている。
- ④ 月曜日に発売されるシュウカン雑誌を愛読している。
- ⑤ 有名な大学教授がカンシュウした本を出版する。

問4 まるで本物のようなハクシンの演技が繰り広げられる。 27

- ① 失敗の責任として権利をハクダツされる。
- ② 和服よりハクライの服を好んで着る。
- ③ コロナウィルスの流行が景気後退にハクシャをかける。
- ④ この作品は有名なガハクが描いたものだ。
- ⑤ 強盗にキョウハクされて金庫を開けてしまう。

問5 徳川將軍家のケイフをたどる。 28

- ① 酸には金属をフシヨクする作用がある。
- ② 車を60か月のゲツプで購入する。
- ③ ピアノの練習のためにガクフを購入する。
- ④ 地方の営業所にフニンする。
- ⑤ 京都の街並みはフゼイがある。

問6 盧溝橋事件は、日中戦争のホツタンとなった。 29

- ① 浅はかで、軽率な考えのことを、タンリョという。
- ② 苦労を重ね、耐え忍ぶことをガシンショウタンという。
- ③ タンセイな顔立ちの映画俳優と記念写真を撮った。
- ④ 先生は、学生達をトイレ掃除のタントウにした。
- ⑤ 「この試験問題はカンタンだ」と受験生は思った。

問7 起きたことは元に戻らないことを、フクスイボンに返らずという。 30

- ① 公金をチャクフクする議員たち。
- ② 大学のフクシ実習で特別養護老人ホームを訪問した。
- ③ 体が大きくカップクのいい紳士が向こうからやってきた。
- ④ 江戸時代の武士は、罪を犯すとセップクを命じられた。
- ⑤ スピード違反で、フクメンパトカーに停止を命じられた。

問8 キセイ概念にとらわれない革新的なアイデアである。 31

- ① その試験問題は昨年使用されたキシュツの問題である。
- ② 道路，港湾，橋などの社会インフラのことを産業キバンという。
- ③ この論文の結論はキジョウの空論だ，と教授に言われる。
- ④ 誰と結婚するのか，それが人生のブンキテンである。
- ⑤ キチョウメンな人と結婚すると苦勞する。

問9 お金をクメンして，開業資金を確保した。 32

- ① 葬儀の際に，故人に贈る果物などをクモツという。
- ② クフウを凝らしたスピーチで人々を惹きつける。
- ③ 中央リニア新幹線の静岡コウクの作業は遅れている。
- ④ クトウテンのない文章は読みにくい。
- ⑤ 四輪クドウの自動車で雪道を走る。

問10 言葉が明瞭で，説得力に富んだ演説をするさまをユウベンという。 33

- ① 宝くじに当たってゴウユウして，散財した。
- ② コンサートの進行が円滑に進むよう時間的ヨユウを設けた。
- ③ 戦国時代はグンユウカッキョの時代であった。
- ④ 源氏物語にはユウガな平安貴族達の恋愛模様が描かれている。
- ⑤ 現在の円安にはキンユウ緩和の影響が認められる。